

Ⅲ. 調査結果の概要

回答者の属性について

本調査の回答者の属性については、性別は男性が 42.8%、女性が 55.4%、年齢構成については、「40歳代」が 20.0%、「70歳以上」が 18.7%、「50歳代」が 17.2%、「60歳代」が 16.7%となっている。

配偶関係では、「結婚している(配偶者・パートナーがいる)」が 63.2%と最も高い。また就労形態は、自身は「勤め人(正規社員・職員)」38.4%、「勤め人(臨時・パート・アルバイト等非正規社員・職員)」18.3%、「無職(家事専業を除く)」14.0%と続いている。子どもの有無については、「2人」が 34.6%と最も高い。

また、家族構成は「二世帯世帯(親と子)」が 45.5%と最も高い。

1 男女の地位の平等について

(1) 男女平等の現状認識 【問1】

男女平等の現状認識についてみると、男女とも「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」で、『男性優遇』（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合）が特に高く、女性で約 8割、男性で約 6割となっている。「全体として」は、女性の 74.8%、男性の 50.3%が『男性優遇』と感じている。「平等である」と感じている割合が高かったのは「学校教育の場」で、女性 43.7%、男性 50.0%となっている。(P. 18)

(2) 女性の増加が望まれる職業・役職 【問2】

女性が増える方が良いと思う職業や役職は、「国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員」が 51.8%、「企業の管理職」が 45.5%、「都道府県の知事・市(区)町村長」が 42.5%となっている。(P. 23)

2 男女の役割分担について

(1) 性別役割分担意識 【問3】

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『同感する』（「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は 34.0%、『同感しない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた割合）は 64.8%となっている。性別でみると、『同感する』は、女性 29.4%、男性 40.9%で、女性の方が 11.5ポイント低くなっている。(P. 24)

(2) 「男は仕事、女は家庭」と思う理由 【問3-1】

「男は仕事、女は家庭」と思う理由は、「子どもの成長にとって良いと思うから」が 55.1%で最も高くなっている。次いで、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が 40.0%、「個人的にそうありたいと思うから」が 26.2%となっている。性別でみると、「個人的にそうありたいと思うから」は女性の方が 9.8ポイント高くなっている。(P. 28)

(3) 「男は仕事、女は家庭」と思わない理由 【問3-2】

「男は仕事、女は家庭」と思わない理由は、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が 61.3%で最も高い。次いで、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が 44.6%、「女性が家庭でしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が 42.7%となっている。(P. 29)

3 家庭生活について

(1) 結婚、離婚に関する考え方 【問4】

結婚、離婚に関する考え方をみると、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」の『そう思う』（「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた割合）は **80.0%**、「結婚してもうまくいかないときは離婚すればよい」の『そう思う』は **76.7%**となっている。「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」「希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」について、『そう思う』は、それぞれ **67.9%**、**64.9%**となっている。（P. 30）

（2）家庭の仕事の役割分担 【問5】

家庭の仕事の役割分担をみると、「生活費をかせぐ」は『男性の役割』（「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」を合わせた割合）と考えている人が **62.5%**で最も高くなっている。一方、「乳幼児の世話」は、『女性の役割』（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を合わせた割合）と考えている人が **54.4%**と半数を超えている。

また、「老親や病身者の介護・看護」「子どもの教育としつけ、学校行事への参加」「自治会、町内会など地域活動への参加」については、「両方同じ程度の役割」が高くなっている。（P. 33）

（3）仕事、家事、育児、介護に要する時間（平日） 【問6】

平日に仕事に要する時間について、**8時間以上**である女性は **37.6%**、男性で **53.3%**となっている。また、家事に要する時間について、**2時間以上**である女性は **52.5%**となっている。一方、男性では**30分未満**が **53.4%**となっている。育児に要する時間については、**5時間以上**である女性は **7%**、男性は、ほとんどないが **9.1%**となっている。介護に要する時間については、男女とも「なし」が最も高く **77.9%**となっている。（P. 36、37）

（4）仕事、家事、育児、介護に要する時間（休日） 【問6】

休日に仕事に要する時間は、男女とも「なし」が最も高く **52.1%**、次に「**4時間未満**」が **23.6%**となっている。また、家事に要する時間は、女性は平日とほとんど変わらず「**2時間～3時間未満**」が **20.5%**で最も高くなっている。男性は、「**1時間～2時間未満**」が **21.1%**で最も高くなっている。育児に要する時間については、**3時間以上**である女性は **15.3%**、男性は **8.4%**と平日より高くなっている。介護に要する時間については、男女とも「なし」が最も高く **75.8%**となっている。（P. 41、42）

4 介護について

（1）家族・親族等を介護する場合の希望 【問7】

家族・親族等を介護する場合の希望は、「ホームヘルパーやデイサービスを利用しながら在宅で介護したい（している）」が **44.8%**で最も高く、次いで「特別養護老人ホーム等の施設に入所させたい（させている）」が **33.6%**となっており、男女別でも同じ傾向となっている。（P. 46）

（2）介護をする人 【問7-1】

介護をする人は、「主に、自分が介護すると思う（している）」が女性で **70.0%**、男性では **28.8%**となっている。「主に、配偶者が介護すると思う（している）」は女性で **6.7%**だが、男性では **34.2%**と最も高くなっている。（P. 47）

（3）介護される場合の希望 【問8】

介護される場合の希望は、「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」が **48.7%**、「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら在宅で介護してもらいたい」が **29.9%**となっている。

性別で見ると、「行政やサービスには頼らず、自宅で家族等から介護してもらいたい」と望む割合は、男性では **5.7%**となっており、女性(**2.8%**)の約**2倍**となっている。（P. 49）

(4) 介護してもらいたい相手 【問8-1】

介護してもらいたい相手は、男女とも「配偶者」が最も高く（54.3%）、女性44.4%、男性65.9%となっている。次いで女性の割合が高いのは、「娘」（21.6%）となっている。（P.50）

5 職業生活について

(1) 女性の働き方についての考え 【問9】

女性の働き方についての考えは、「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が35.2%で最も高く、次いで、「育児の時期だけ一時やめ、その後パートタイムで仕事を続ける方がよい」が20.7%となっている。性別で見ると、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」について、男性の方が女性より6.9ポイント低くなっている（女性24.1%、男性17.2%）。（P.52）

(2) 実際の女性の働き方 【問9-1】

実際の女性の働き方をみると、「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」が27.6%で最も多い。次いで、「育児の時期だけ一時やめ、その後パートタイムで仕事を続けている」が17.8%となっている。

性別で見ると、「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」が女性34.4%、男性18.8%となっており、15.6ポイントの差がある。（P.55）

(3) 男性が家事、育児、介護・看護をする阻害要因 【問10】

男性が家事、育児、介護・看護をする阻害要因をみると、「休暇が取りにくいこと」「職場の人員配置に余裕がないこと」が共に28.1%で最も多い。次いで、「超過勤務が多いこと」が23.4%となっている。（P.57）

(4) 職場において男女格差を感じる事 【問11】

「男性の方が優遇されている」では「管理職への登用」（女性34.8%、男性38.6%）が最も高く、次いで「昇進・昇格」（女性30.8%、男性28.9%）となっている。

「女性の方が優遇されている」では「育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」（女性22.6%、男性32.1%）が高くなっている。また「平等である」は、「研修の機会や内容」（女性54.4%、男性63.9%）が高くなっている。（P.58）

(5) 今後の就労意向 【問12】

64歳以下で現在、家事専業または、無職（学生を除く）の方を対象とし、今後働きたいかどうかについては、「はい」が最も高く40.9%、「いいえ」が16.1%、「どちらとも言えない」が28.0%となっている。（P.66）

(6) 働けない理由 【問12-1】

64歳以下で現在、家事専業または、無職（学生を除く）の方を対象とし、現在働けない理由を実数で見ると、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため」が最も多い。次いで、「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないから」となっている。（P.67）

(7) 働きたくない理由 【問12-2】

64歳以下で現在、家事専業または、無職（学生を除く）の方を対象とし、現在働きたくない理由を実

数でみると、「急いで仕事に就く必要がないから」が最も多い。次いで、「知識、能力など仕事に就く自信がないから」となっている。(P. 68)

(8) 女性が働き続けるために必要なこと 【問13】

女性が働き続けるために必要なことは、「企業経営者や職場の理解」が 55.1%、次いで「育児・介護休暇制度の充実」が 54.5%となっている。

性別でみると、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」については、女性 49.7%、男性 41.7%となっており、8ポイントの差がある。(P. 69)

(9) 女性が再就職しやすくなるために必要なこと 【問14】

女性が再就職しやすくなるために必要なことは、「企業経営者や職場の理解」(44.9%)、「育児や看護・介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」(44.3%)、「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」(43.5%)が高くなっている。(P. 72)

(10) 社会・職場における男女共同参画の進展 【問15】

「以前に比べて、社会で女性が活躍しやすくなっている」について『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)は 77.2%、「以前に比べて、男女とも働き続けやすいまちなっている」は『そう思う』が 55.0%となっている。(P. 75)

(11) 女性が理系進学をめざすことに対する考え 【問16】

女性が理系進学をめざすことに抵抗があるかに対して「あまりそう思わない」で 14.0%、「そう思わない」が 72.7%と理系進学をめざすことに抵抗はない割合が高い。(P. 75)

6 「仕事」「家庭や地域活動」「個人生活」のかかわり方について

(1) 生活の中で優先すること(希望と現実) 【問17】

希望として生活の中で優先したいことは、「仕事」と「個人の生活」をともに優先したいが 26.4%、次いで、「個人の生活」を優先したいが 22.0%、「仕事」「家庭や地域活動」「個人の生活」の3つとも大切にしたいが 20.9%となっている。性別でみると、「仕事」を優先したいは男性の方が女性より 10.8ポイント高く、「仕事」と「個人の生活」をともに優先したいは、女性の方が男性より 8.8ポイント高くなっている。

一方、現実的に生活の中で優先していることについては、「仕事」を優先しているが男女とも最も高く 42.6%、特に男性は 53.4%と高くなっている。女性では、「仕事」を優先しているが 32.5%、次いで「仕事」と「個人の生活」をともに優先しているが 27.5%となっている。(P. 76、79)

(2) 男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要なこと 【問18】

男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要だと思うことは、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が 41.0%で最も高くなっている。次いで、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が 38.2%、「男性が家事、育児、介護・看護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」が 36.7%となっている。(P. 82)

(3) 地域活動参加状況 【問19】

地域活動の参加状況は、「今後とも参加したくない」が 31.7%、「何らかの社会活動に参加している」が 26.8%、「参加したいと思うが参加できない」が 24.7%、「特に参加していないが、今後参加してみたいものがある」が 10.3%となっている。(P. 85)

(4) 参加している・参加したい地域活動 【問19-1】

参加している・参加したい地域活動は、「自治会・町内会などの行事や活動」が 55.4%で最も高く、次いで、「趣味やスポーツのサークル活動」が 33.4%となっている。また、性別でみると「防犯活動や防災活動」は男性の方が 15 ポイント高く、「育児支援や子どもの育成活動」は女性が 14.5 ポイント高い。(P. 87)

(5) 参加できない・参加したくない理由 【問19-2】

参加できない・したくない理由は、「仕事との両立が難しい」が 38.3%、「参加したい活動がない」が 23.9%、「活動時間が合わない」が 20.6%である。性別でみると、「家事や育児との両立が難しい」は、女性が 9.3 ポイント高い。(P. 88)

(6) 地域・家庭における男女共同参画の進展 【問20】

地域・家庭における男女共同参画の進展について、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）の割合を見てみると、「男性の育児への参画が以前より進んでいる」が 70.1%、「男性の介護への参画が以前より進んでいる」が 46.6%、「地域活動が以前より活性化している」が 22.0%となっている。(P. 89)

7 ドメスティック・バイオレンスについて

(1) 暴力だと思うこと 【問21】

暴力だと思うことについて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」をみると、「なぐる、ける」「子どもに危害を加えたり、子供を取り上げようとする、又は子どもの前で暴力をふるう」は男女とも 9 割を超えている。

性別でみると、全ての項目で女性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合は高くなっており、特に「友達や身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする」、「暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする」は男性と比べて 10 ポイント以上高くなっている。(P. 90)

(2) 配偶者等からの暴力(DV)の相談窓口の認知度 【問22、問22-1】

配偶者等からの暴力(DV)の相談窓口を「知っている」割合は約半数の 50.7%で、性別での差はほとんど見られない。相談窓口では「警察」が 83.7%で最もよく認知されている。次いで、「市町村など役所の相談窓口」が 53.8%、「配偶者暴力相談支援センター」「民間の専門家や専門機関」が 39.3%となっている。(P. 91)

(3) 配偶者等からの暴力(DV)の相談窓口の認知手段 【問22-2】

相談窓口の認知手段は、「テレビ(ニュース、テレビ番組等)」が 58.7%で特に高い。次いで、「インターネット(ホームページ、SNSなど)」が 29.5%、「パンフレット、リーフレット、相談カード」が 24.4%である。(P. 93)

(4) 交際相手からの暴力(デートDV)を受けた経験 【問23】

交際相手からの暴力(デートDV)を受けた経験について「何度もあった」でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が 1.7%、次いで「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」が 1.4%となっている。『あった』（「何度もあった」と「1・2度あった」を合わせた割合）でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が 9.5%で最も高い。(P. 94)

(5) 配偶者等からの暴力(DV)を受けた経験 【問24】

配偶者等からの暴力(DV)を受けた経験を「何度もあった」で見ると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が6.5%、次いで「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」が3.1%となっている。『あった』(「何度もあった」と「1・2度あった」を合わせた割合)で見ると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が19.2%で最も高い。(P.101)

(6) 配偶者等から子供を巻き込む・利用した暴力(DV)を受けた経験 【問24-1】

配偶者等から子どもを巻き込む・利用した暴力を受けた経験は、「何度もあった」が3.0%、「1・2度あった」が10.0%となっており、性別で見ると女性のほうが「何度もあった」が4.8%と男性より4ポイント高い。(P.108)

(7) ドメスティック・バイオレンス(DV)の被害の相談先 【問25】

被害の相談先を見ると、デートDV、DVともほぼ半数が「どこ(だれ)にも相談しなかった」としており、DVの場合、特に男性の割合が高くなっている。相談先は、デートDVの場合は主に「友人、知人」(25.2%)となっており、次いで、「家族や親戚」(11.5%)で、相談機関への相談割合は低い。

DVの場合も、主な相談先は「友人、知人」(21.1%)、「家族や親戚」(16.3%)が高い。相談機関では「警察」が3.5%となっている。(P.109)

(8) ドメスティック・バイオレンス(DV)の被害を相談しなかった理由 【問26】

被害を相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が男女とも最も高く、特に男性のDV被害者で56.8%となっている。次いで、デートDV、DVともに「自分にも悪いところがあると思ったから」が高くなっている。(P.116)

8 性暴力・性犯罪について

(1) 性暴力・性犯罪被害経験 【問27】

性暴力・性犯罪被害経験が「ある」女性は12.9%、男性は3.4%である。(P.120)

(2) 性暴力・性犯罪被害の相談先 (問27-1)

性暴力・性犯罪被害については「どこ(だれ)にも相談しなかった」が75.9%で最も高い。次いで「知人・友人に相談した」が13.9%、「家族や親戚に相談した」が6.3%となっている。(P.121)

(3) 性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由 【問27-2】

性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由は、「相談してもむだだと思ったから」が36.7%で最も高く、次いで「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が26.7%となっている。(P.123)

(4) メディアにおける性・暴力表現 【問28】

メディアにおける性・暴力表現について、『そう思う』(「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)が最も高いのは「性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」で53.4%となっている。(P.125)

(5) 配偶者等からの暴力をなくすためにもっと取組が必要なこと 【問29】

配偶者等からの暴力をなくすために必要な取組は、「法律・制度の制定や見直しを行う」が51.7%で最も高く、次いで「犯罪の取り締まりを強化する」が49.7%、「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が44.6%となっている。性別で見ると、女性は「過激な内容のDVDやゲームソフト等の

販売や貸出を制限する」が男性より12.2ポイント高くなっている。(P. 128)

9 男女共同参画に関する用語の認知度

(1) 聞きしことがある言葉 【問30】

男女共同参画に関する言葉で聞きしことがあるものを『聞いたことがある』(「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた割合)で見ると、「男女雇用機会均等法」が女性で84.1%、男性で88.0%と最も高く、次いで「DV防止法」で男女ともに74.0%となっている。(P. 129)

(2) 男女平等の実現にとって最も重要なこと 【問31】

男女平等の実現にとって最も重要なことは、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が30.0%、次いで「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」が27.5%となっている。また、「女性自身が経済力をつけたり積極的に知識・技術の向上を図ること」は女性22.1%、男性11.7%で女性の方が10.4ポイント高くなっている。(P. 131)

10 男女共同参画社会の推進に向けて

(1) 男女共同参画社会を推進するために府や市町村がすべきこと 【問32】

男女共同参画社会の推進に向けて、府や市町村が力を入れていくべきことは、「育児や介護・看護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が48.5%、次いで「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」が46.7%となっている。性別で見ると、「男女共同参画を進めるための啓発活動を充実する」が女性9.7%、男性18.2%で男性の方が8.5ポイント高くなっている。(P. 134)